

開設科目名	科目：住環境学フィールド演習Ⅰ										担当教員：中山徹・今井範子・増井正哉・井上容子・瀬渡章子・向井洋一							
開 講 期	集中（前期）			授業方法：演 習				単位数：1 単位				週時間：集中15時間						
対 象 学 生	1 回生			科目番号：065820														
授業の概要	この授業は以下の二つに分かれて行う。 一つめは、正倉院展関連事業である。これは正倉院展に来られた方々を対象に、奈良の魅力を伝える観光ルートを設定し、それを冊子等にして普及する演習である。この演習は地元で結成される実行委員会と共に行う。 二つめは、きたまちを中心とした地区の地蔵盆調査である。これも地元の市民と共に地蔵盆の実態調査を進め成果物としてまとめる演習である。																	
学 習 ・ 教育目標	（１）地域調査の方法を学ぶ （２）観光資源の発掘を行う （３）歴史的な取組を調べる （４）プレゼンテーションの方法を身につける																	
	対応表	A			B		C			D			E		F			
		A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	F-1	F-2	F-3
																◎		○
キーワード	正倉院展、きたまち、地蔵盆、観光																	
授 業 計 画	（１）演習の進め方等についての説明 （２）演習、グループに分かれて随時 （３）プレゼンテーション																	
教 科 書	なし																	
参 考 書	適宜、紹介する																	
成 績 評 価 方 法	課題、参加状況など																	
評価割合	定期試験 （中間・ 期末試験）	小テスト・ 授 業 内 レ ポ ー ト			宿題・授業 外レポート		授業態度・ 授 業 へ の 参 加 度		受 講 者 の 発 表 （プレゼン）		出 席					合 計		
	%	%			%		50%		50%		%		%			100%		
備 考	①住環境学科H18年度以降入学者以外の学生は「キャリアデザイン・ゼミナール（歴史的町並みの保存・再生実践講座その１）」（科目番号が異なる）で履修すること。 ②受講希望者が多い場合は選考する場合があります。 ③副科目：住居文化景観学、建築・住宅史、一般構造学、建築設備学Ⅰ、住環境計画学、都市計画学Ⅰ（ただし、これらの副科目が未履修であっても、本科目の履修は可能です） A～Fは住環境学科（専攻）の学習・教育目標である。具体的内容については住環境学科のホームページを参照のこと。 担当者の連絡先、オフィスアワーはシラバス巻末に記載																	

開設科目名	科目：住環境学フィールド演習Ⅱ										担当教員：増井正哉・今井範子・井上容子・瀬渡章子・中山徹・向井洋一								
開 講 期	集中（後期）			授業方法：演 習			単位数：1 単位				週時間：集中15時間								
対 象 学 生	1 回生			科目番号：065830															
授業の概要	奈良女子大学は、奈良の歴史的市街地に立地する。この地域は、古代から現代にいたる歴史遺産が、さまざまな形態で重層的に継承されている。この演習では、奈良きたまち（奈良女子大学周辺地区）地域住民・行政と連携しながら、歴史的町並み保存・再生・居住環境整備の計画策定にいたる実践的なプロセスを体験する。																		
学 習 ・ 教 育 目 標	①歴史的町並みの保存・再生のプロセスを体験する。 ②歴史的町並みの活用法について理解する。 ③歴史的町並み調査の手法を理解する。 ④歴史的市街地における歴史遺産の存在形態を理解する。 ⑤地域住民と連携しながらプロジェクトを進める。																		
	対 応 表	A			B		C				D			E		F			
		A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	F-1 ◎	F-2	F-3 ○	
キーワード	歴史的町並み・町家・保存・再生・修復・活用																		
授 業 計 画	【演習の流れ】 1. ガイダンス 2. 対象地域のくらしと文化、居住環境整備の課題 ゲストスピーカーによるレクチャー 3. フィールド調査テーマの決定 4. 調査計画書作成 5. フィールド調査実施 6. 報告書作成 7. 活動報告会（公開） 【フィールド調査のテーマ】 フィールド調査のテーマは下記に例示するように多種あるが、地域住民・連携機関とも合議し、何れかに絞り込み、全員で一つのテーマに取り組む予定である。 （1）歴史的遺産の分布と存在形態 （2）歴史的町並みの景観調査 （3）歴史的建造物の調査 （4）住生活に関する調査 （5）居住環境に関する調査 （6）保存再生計画の作成																		
教 科 書	指定無し																		
参 考 書	必要に応じて随時紹介																		
成 績 評 価 方 法	調査計画立案、調査実施、結果の分析、報告（改善提案を含む）という一連の活動を総合的に評価する。																		
評価割合	定期試験 （中間・ 期末試験）	小テスト・ 授 業 内 レ ポ ー ト			宿題・授業 外レポート		授業態度・ 授 業 へ の 参 加 度		受 講 者 の 発 表 （プレゼン）		出 席		調 査 報 告 レ ポ ー ト		合 計				
	%	%			%		30%		20%		%		50%		100%				
備 考	①住環境学科H18年度以降入学以外の学生は「キャリアデザイン・ゼミナール（歴史的町並みの保存・再生実践講座）」（科目番号が異なる）で履修すること。 ②受講希望者が多い場合は選考する場合があります。 ③副科目：建築・住居史、住生活学Ⅱ、一般構造学、建築装備学Ⅰ、住居管理学、住環境計画学、都市計画学Ⅰ（ただし、これらの副科目が未履修であっても、本科目の履修は可能です） A～Fは住環境学科（専攻）の学習・教育目標である。具体的内容については住環境学科のホームページを参照のこと。 担当者の連絡先、オフィスアワーはシラバス巻末に記載																		

開設科目名	科目：住環境学フィールド演習Ⅲ										担当教員：中山・井上・瀬渡・増井・向井								
開 講 期	集中（前期）			授業方法：演 習				単位数：1 単位				週時間：集中15時間							
対 象 学 生	1 回生			科目番号：065840															
授業の概要	8 月にもちいどの商店街マインズ広場で開催させる24時間テレビのスタッフになる。 そのことを通じて、商店街の現状を実践的に学ぶと同時に、24時間テレビのイベントスタッフになることで商店街活性化を実際に行う。 また、スタッフになり24時間テレビの運営等に関わることで、イベントの進め方を学ぶ。 これらの取り組みは、地元商店街のスタッフと共同で行う。																		
学 習 ・ 教 育 目 標	（1）商店街の実態を学び、活性化の取り組みを行う。 （2）24時間テレビのスタッフになりイベントの進め方を理解する。 （3）商店街のスタッフと共にイベントを進めることで社会性を身につける。																		
	対 応 表	A			B		C				D			E		F			
		A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	F-1	F-2	F-3	
																◎	○		
キーワード	24時間テレビ、商店街活性化、イベントスタッフ																		
授 業 計 画	（1）ガイダンス （2）実行委員会 地元スタッフと共同で進めるため、日時は4月以降に決める （3）準備 （4）24時間テレビ当日 （5）反省会																		
教 科 書	なし。																		
参 考 書	なし。																		
成 績 評 価 方 法	授業態度等で総合的に評価する。																		
評価割合	定期試験 （中間・ 期末試験）	小テスト・ 授 業 内 レ ポ ー ト			宿題・授業 外レポート			授業態度・ 授 業 へ の 参 加 度			受 講 者 の 発 表 （プレゼン）			出 席				合 計	
	%	%			%			100%			%			%		%		100%	
備 考	前期の科目であるが、24時間テレビは8月に実施されるため、授業は8月まで行う。 A～Fは住環境学科（専攻）の学習・教育目標である。具体的内容について住環境学科のホームページを参照のこと。 nakayama@ccnara-wu.ac.jp、オフィスアワー：月曜日・火曜日の11時～12時																		

開設科目名	科目：住環境学フィールド演習Ⅳ										担当教員：長坂 大							
開 講 期	集中（前期）			授業方法：演 習			単位数：1 単位				週時間：集中15時間							
対 象 学 生	1 回生			科目番号：065850														
授業の概要	建築木材生産地にて、木材が原木から建築資材になるまでの課程について学習させ、次に木材を使って自ら工作物、建築物を設計施工する。 全国的に展開されている「木匠塾」の、奈良県川上村部門に参加させる。（7～15日程度の合宿体勢で実施） この合宿に先立つ企画設計段階において、他大学との検討会議に不定期に参加することが必要である。																	
学 習 ・ 教 育 目 標	材料についての基礎的知識を得る。 素材の基礎的加工技術を習得する。 素材を生かした工作物のデザインを学ぶ。																	
	対 応 表	A			B		C			D			E		F			
		A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	F-1	F-2	F-3
																	○	◎
キーワード	木匠塾 木材 木構造 体験学習																	
授 業 計 画	「木匠塾」の、奈良県川上村部門に参加。 夏休み期間中に7～15日程度の合宿体勢で実施する。 具体的なスケジュールや内容については、4月以降、不定期に開かれる企画会議に参加して決定する。																	
教 科 書	特になし																	
参 考 書	特になし																	
成 績 評 価 方 法	提出作品と参加日数により評価する																	
評価割合	定期試験 （中間・ 期末試験）	小テスト・ 授 業 内 レ ポ ー ト		宿題・授業 外レポート		授業態度・ 授 業 へ の 参 加 度		受 講 者 の 発 表 （プレゼン）		出 席		成 果 物 の 価 値		合 計				
	%	%		%		%		%		20%		80%		100%				
備 考	初回の開講日／教室などについては、掲示に注意すること（問合せは、長坂へ）。 「川上村木匠塾」のホームページを見て、活動概要を把握しておくこと。 A～Fは住環境学科（専攻）の学習・教育目標である。具体的内容については住環境学科のホームページを参照のこと。																	

開設科目名	科目：住環境学フィールド演習Ⅴ										担当教員：瀬渡章子・井上容子 向井洋一							
開 講 期	集中（前期）			授業方法：演 習				単位数：1 単位				週時間：集中15時間						
対 象 学 生	1 回生			科目番号：065860														
授業の概要	地域との連携を取りながら、大学周辺地域の生活環境の現状を防犯・防災の面から把握し、地域が積極的に「安全・安心のまちづくり」に取り組んでいく上で、学生自身がどのように地域に貢献していくことが出来るのかを考えていく。更に、地域の生活安全や生活環境整備に携わる諸機関と連携を取りながら環境改善を考えることで、地域の環境整備に役立つ能力を養成する。																	
学 習 ・ 教 育 目 標	①身近な生活環境および自身の生活行動の実態を防犯の面から把握し、認識する。 ②大学周辺地域の環境および人々の行動を客観的にとらえ、問題を発掘し、解決策を考える力を養う。 ③環境整備や自主防犯活動を行うにあたって、地元自治会、行政、警察など地域の生活安全や生活環境整備に携わる関連諸機関との連携の取り方について学ぶ。 ④地域の環境整備活動「安全・安心のまちづくり」に必要な基礎的専門知識を関連講義（副科目）を通じて学習し、改善活動実践能力を養成する。																	
	対 応 表	A			B		C				D			E		F		
		A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	F-1	F-2	F-3
																◎		○
キーワード	安全・安心、まちづくり、地域連携、犯罪予防、事故防止																	
授 業 計 画	授業は前期不定期として実施（90分×7.5回） 【演習の流れ】 1. ガイダンス 2. 「安全・安心のまちづくり」に関する講習会：ゲストスピーカー 最近の犯罪および犯罪対策の動向を知る（犯罪被害発生状況：被害、時間・場所、被疑者、被害者等の特徴など。警察、行政、市民による防犯活動） 3. 身近な犯罪被害の原因と対策の検討（ワークショップ形式で） 空き巣、ひったくり、自転車盗などの身近な被害について、発生原因や対策の現状について意見交換し、物的環境および生活者の意識面から被害を防止する上での問題点を探る。 4. ひったくり防止対策の成功と失敗に学ぶ：ゲストスピーカー 「ひったくり」を対象に、防犯活動の実践者からこれまでの取り組みについて説明を受け、成功と失敗の要因について考える。 5. ひったくり防止対策の検討と新しい商品開発 ひったくり防止対策を利用者の意識・行動、地域環境整備などから検討するとともに、ひったくり防止に効果的な自転車の前カゴのデザインを提案する。 6. 報告書作成 7. 活動報告会（公開）																	
教 科 書	指定無し。必要に応じて資料を配布。																	
参 考 書	必要に応じて随時紹介。																	
成 績 評 価 方 法	課題設定、調査計画立案、調査実施、結果の分析、報告（改善提案を含む）という一連の活動を総合的に評価する。																	
評価割合	定期試験 （中間・ 期末試験）	小テスト・ 授 業 内 レ ポ ー ト			宿題・授業 外レポート		授業態度・ 授 業 へ の 参 加 度		受 講 者 の 発 表 （プレゼン）		出 席		課 題 報 告 レ ポ ー ト		合 計			
	%	%			%		30%		20%		%		50%		100%			
備 考	①住環境学科H18年度以降入学学生以外の学生は「キャリアデザイン・ゼミナール（安全・安心のまちづくり実践講座）」（科目番号が異なる）で登録すること。 ②受講希望者が多い場合は選考することがある。 ③副科目：建築・住宅史、建築一般構造学、建築設備学Ⅰ、住環境計画学、都市計画学Ⅰ（ただし、これらの副科目が未履修であっても、本科目の履修は可能）。 ④A～Fは住環境学科（専攻）の学習・教育目標である。具体的内容については住環境学科のホームページを参照のこと。 担当者の連絡先、オフィスアワーはシラバス巻末に記載																	